

GREEN RADER



A-Policy【重点事業方針】

生産販売部 野菜きのこ課の取組み

中期事業計画（令和4～6年度）実行具体策の進捗状況について 04～06

A-Reports

- ・ナガノきのこ大祭2024 07
- ・長野県スポーツ協会に長野米などを寄贈 07
- ・「長野県産 野菜ときのこキャンペーン」開始！ 08
- ・県内スピードスケート選手を応援！
山田梨央選手と伊藤誠悟選手が来訪 08

- ・新採用職員紹介 09
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・今月のおすすめレシピ 10
- ・6月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

(単位：千円)

1. 令和6年度事業計画

大品目	6年度計画	5年度計画	5年度実績	計画対比	実績対比
葉菜	20,000,000	20,000,000	18,554,073	100%	108%
洋菜	31,290,000	31,290,000	28,358,907	100%	110%
根菜	730,000	735,000	690,672	99%	106%
果菜	4,820,000	4,815,000	5,107,472	100%	94%
加工野菜他	510,000	510,000	396,106	100%	129%
購買種苗他	680,000	680,000	474,069	100%	143%
野菜合計	58,030,000	58,030,000	53,581,299	100%	108%
きのこ	18,510,000	18,230,000	17,689,632	102%	105%
きのこ加工	110,000	110,000	115,554	100%	95%
種菌培地	400,000	440,000	284,389	91%	141%
きのこ合計	19,020,000	18,780,000	18,089,575	101%	105%
合 計	77,050,000	76,810,000	71,670,872	100%	108%

野菜きのこ課

生産販売部 野菜きのこ課の取組み

2. 重点取組事項(野菜)

(1) 生産コスト・流通コスト上昇における対策として、農産物販売価格向上と生産経費圧縮に向けた生産販売に取り組みます。

① 生産コスト上昇に伴う価格への反映と消費者への啓発を行います。

② 契約的取引の価格の底上げを図ります。

③ 県下統一規格に向けた出荷容器規格の検討や輸送効率化を進めます。

(2) 主力品目の需要に見合った計画生産・計画販売を徹底し、販売価格の安定を図ります。

① 課題となる夏ハクサイ、レタス類



ブロッコリーの県下規格統一を進めます

の計画について、地域に見合った具体的な代替品目の提案と誘導施策を行います。

② 本県として生産力の充実が必要な品目・期間を明確にし、生産誘導を進めます。

③ 精度の高い生産・販売情報に基づいた、積極的な企画提案により需要の活性化を図ります。

④ 価格形成に向けた分荷機能を発揮するためのシステム化を進めます。

⑤ 緊急時には特別対策事業を効果的に発動し、出荷調整機能を発揮します。

(3) 長野県としての重点市場・実需者を明確にして、JAと一体となった供給販売体制を強化します。

① 機能ある卸売会社との連携を強化し、県内産地リレーや総合品目供給を進め、消費宣伝を活用し重点実需者への対応力を強化します。

② 契約取引は、顧客確保、競合産地対策と生産者手取りの安定確保を

目的として、確実に契約履行するためには条件整備と生産対策を行います。

③業務加工実需者との連携により販促・出荷形態検討・商品開発を行い、産地・実需者ともにメリットある取組みを進めます。

④他企業との業務連携による新たな販売対策の構築を進めます。



昨年以上に長野県産をPRしたファミリーマートのレタスマックス

④多様な生産者への生産提案による生産基盤強化と、系統共販対策を進めます。

①果根菜類および加工業務原料野菜を農業生産法人・営農組合・複合経営生産者などに推進し生産拡大と集荷対策を進めます。

⑤より信頼される産地になるために、品質向上対策、出荷物のトレース体

制整備、GAPの取組強化を進め、認証GAPの導入と販売提案を進めます。



夏の消費促進に向けた野菜ときのこの合同キャンペーン

3. 重点取組事項(きのこ)

(1)生産コスト・流通コスト上昇における対策として、農産物販売価格向上と生産経費圧縮に向けた生産販売に取り組みます。

①生産コスト上昇に伴う価格への反映と消費者への啓発を行います。

②契約的取引の価格の底上げを図ります。

③アイテムや規格集約によりトータルコストの削減と安定供給による価格形成力の強化を図ります。

(2)営業強化と供給拡大による販売価格回復を図ります。

①きのこ重点取引先への定期推進と総合品目による供給拡大を進めます。

②時期別・目標価格に見合った事前提案や実需者販促企画により価格の安定化を図ります。

③付加価値商品の活用と商品提案力強化による業務加工実需者の新規獲得を進めます。

(3)実需者支援型消費宣伝事業の継続提案を進めます。

①販売支援員による推奨(試食)販売提案の継続と新規販促資材開発を進めます。

②店舗売り場職員・バイヤーへの研修会開催による長野のファンづくりを進めます。

③きのこ食文化と需要創出に向けた各種研修会開催およびレシピ開発を進めます。



学校給食関係者と栄養士向けのきのこ学習会(産地とライブ中継を実施)



ナガノきのこ大祭 2024



- (4) 全県における計画生産と集荷対策の改善を進めます。
- ① 生産者個別集荷対策の実施による安定供給を進めます。
 - ② 他県本部や企業との情報交換会を進め、きのこの需要促進を図ります。
 - ③ 系統出荷誘導により系統率の拡大を図ります。
 - (5) 市場要請量に沿った生産計画を進めます。
 - ① 需要と供給の適正量の検証を進めます。



長野駅前で11月11日の「長野県きのこの日」をPR

- (6) 安全安心に向けた衛生管理の徹底と品質向上に努めます。
- ① 金属、ガラス、プラスチックなど健康被害案件につながる異物混入対策の徹底を図ります。
 - ② 県GAP、第三者認証GAP、HACCPによる安全な商品管理の励行を進めます。
- (7) パレット輸送およびコスト抑制に向けた



パレット適合段ボール試験

- けた段ボール開発・導入を進めます。
- ① パレット規格に適合する共通ダンボールの開発と導入推進を進めます。
 - ② 輸送効率化に向けたパレット単位輸送を進めます。
- (8) 品種開発と新品目開発
- ① ぶなしめじ新品種の県下普及と品質平準化による良品供給を実現します。
 - ② ぶなしめじの契約的取引の獲得を進めます。

中期事業計画（令和4～6年度）

実行具体策の進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の実践によりJA支援に取り組むとともに、JAおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 中期事業計画における基本目標 令和6年3月末時点での総括

その1 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大

- (1) マーケットニーズを踏まえ、地域実態・担い手ニーズに対応した生産提案と生産拡大に取り組むとともに、生産安定に向けた現地指導、栽培講習会を通じて営農指導支援体制の強化に努めました。
- (2) 気象変動に対応した生産安定化対策と災害対策として施設化を推進しました。また、労働力不足や生産性向上等課題解決に向けスマート農業・農業DX化の導入をすすめました。

その2 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 重点卸売会社・実需者に向けた総合品目供給による本県の長期売り場の拡充、付加価値販売・商品の強化や独自色のあるeコマース事業の強化等により販売力強化に取り組みました。
- (2) 包材や肥料のコスト抑制、農機低価格モデル共同購入や地域推奨型式の重点購買に取り組むとともに、農業生産用燃料支援対策の実施により生産コストの圧縮をはかりました。

その3 JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

- (1) ライフラインSS協同経営方式の開始に向けた準備をすすめるとともに、系統結集による石油取扱数量の確保やSS競争力の強化、新たな県域農機整備拠点の設置による系統整備体制強化に取り組みました。
- (2) 石油・LPGガス・ホームエネルギー・宅配事業の収支改善と体制強化による地域ライフライン維持を通じて組合員満足度を高め、活気ある地域社会づくりに取り組みました。

II. 中期事業計画における取り組みの特記事項 令和6年3月末時点での総括

その1 担い手推進センターの取り組み

- (1) 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、JAと連携し地域の担い手への推進を行い、担い手のニーズや課題の把握を行いました。
- (2) 担い手からの要望や課題に対しては、各事業所と本所3部門で共有、協議するとともに、解決策等の具体的提案を行いました。
- (3) 3月末での担い手訪問回数の累計は224回で、訪問した担い手件数は131件となりました。

その2 農業生産管理支援システムの進捗状況

- (1) 全体進捗
関係部署を召集のうえ開発進捗会議を行い、県本部方針やシステム別の開発概要・スケジュール等について共有・協議を行いました。また、JA長野中央会・（株）長野県協同電算と連携し、各JAの企画・営農部門との協議に基づき、システム開発をすすめました。
- (2) 各システムの進捗状況

情報発信	全JAにて稼働しています。組合員MYページやあい作との連携及び閲覧記録確認機能により更なる利便性の向上や質の高い情報の発信を目指します。
圃場カルテ	圃場台帳・生育診断に加え、あい作連携・分析・圃場カルテ作成機能の運用を開始し、アスパラガスにて圃場カルテを出力しました。利用JA拡大と品目拡充の開発をすすめます。
青果物販売管理	予約集計・出荷報告及び集荷・荷受機能は令和6年度稼働に向けた開発をすすめています。引き続き集出荷・分荷や輸送管理を含めた機能開発をすすめます。
土壌診断	組合員サービスの向上と事務効率化のために申請及び結果報告の機能を構築し、令和6年度から全JAによる導入をすすめます。
米穀出荷管理	出荷契約の電子化機能と協同電算「米穀システム」への連携機能を構築し、令和6年度米出荷契約について5JAでの導入をすすめます。

III. 各事業別 令和6年3月末進捗状況

【生産振興部】

実行具体策

5年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進

(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた3部連携による生産・販売支援	推進・拡大	担い手への栽培技術や資材の提案	果菜類等の栽培技術提案や排水性向上に向けた技術支援を実施した。
(2) リング高密植栽培の普及拡大	490 ha	480 ha 現地指導の実施	生産安定に向けた現地指導を実施した。引き続き、栽培講習会等を開催し、課題解決に向けた技術指導を実施する。普及拡大・推進のため、令和6年度よりJA別面積等の調査・集約を実施する。
(3) JA生産法人と連携した実証圃設置や作業受託等地域振興への取り組み	3法人	ピーマン実証圃（2法人） アスパラガス実証圃（1法人）	簡易施設栽培、品種試験や新たな栽培技術の実証試験を行った。実証結果を踏まえ、普及拡大に向けた提案を行う。また、品種試験等を継続して実施する。

2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害急避対策の推進

(1) リング高密植栽培のトレリス強化対策推進と多目的ネットの普及拡大	現地検討4カ所	多目的ネット 5・5 ha 現地検討4カ所	災害対策等を目的とした多目的ネットの普及推進を実施。 高温対策コスト低減策として外国製コンクリート支柱の検討をすすめる、令和6年度にモデル圃場を設置する。
(2) 生産安定に向けた野菜の施設化推進	県下4事例 現地検討実施	アスパラガス（1事例） ピーマン（3事例）	アスパラガス及びピーマンのモデル圃場の設置を行い、実証結果を活用した普及推進をすすめた。

(3)専用農機を活用した排水対策の実施	レンタル8JA	デモによる実演3JA	平高畝成型機「ベッドマイスター」による「平高畝栽培」モデル圃設置し、排水性向上効果を確認。県下普及に向けて推進する。
---------------------	---------	------------	--

3. スマート農業、農業DX化の促進

(1)農業生産管理支援プラットフォームの開発・導入と機能拡充	運用拡大・機能拡充 情報配信全JA	情報発信システムによる情報発信。 圃場カルテシステム運用開始。	営農指導や資材関連等の情報を定期的に発信。また、旬別気象表や果樹生育状況等の配信を開始。 圃場カルテシステム(アスパラガス)の運用を3JAで開始。令和6年度、リンゴ高密植栽培のシステム開発に着手する。
--------------------------------	----------------------	------------------------------------	---

4. 県本部種苗供給体制の強化

(1)野菜種苗センターの優良苗供給拡大	185万本	137万本	良品質苗の安定生産を継続し、次期作に向けての推進を行う。
(2)リンゴフェアー苗の生産供給拡大(生産振興部生産本数)	5・8万本	5・8万本	優良生産種苗供給のため、栽培指導や苗の生育管理を継続する。

【生産販売部】

実行具体策	5年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
-------	-------	------	--------------

1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化

(1)重点卸売会社、重点実需者に向けたJAと品目を横断した本県長期売場拡充	重点卸売会社取扱高77%	重点卸売会社取扱高78%	継続的な商談と売り場確保により先のみえる商売を拡大。
(2)業務・加工、輸出需要に対する多様な販売・流通手法による取り組み強化	①新規5件 ②輸出額22億円	①新規2件 ②輸出額22億	①野菜2件(CVS向け) ②モモは生産減及び中秋節に合わせ出荷減
(3)業務・加工需要への対応			

2. 系統集荷販売力および収益力の向上

(1)系統未利用・低利用の生産者等に向けたJAと連携した生産・販売提案	販売・購買事業の利用提案	リンゴ苗供給先新規訪問24件、アスパラガス3万本新規	継続的なアフター対応
(2)コンセプトを明確にした青果物付加価値販売・商品の強化	付加価値販売開発5件	新規販売先2件	果実コンポート2件

3. デジタル技術活用による事業効率化

(1)JA業務と連動する販売・購買システム構築による情報活用	システム開発と運用開始	予約・特注入力機能、生産者出荷報告機能開発終了	予約・特注入力機能、出荷報告機能の稼働(R6年5月)
--------------------------------	-------------	-------------------------	----------------------------

4. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立

(1)継続できる安定輸送体制の実現 ①遠隔地および東京・大阪・名古屋方面の輸送課題の改善	拠点会社等の機能を活用した輸送の取り組み	パレット運用スキーム構築、スリをすすめる。 JA・輸送会社と連携し、出荷までの対応・荷受先の課題整理を行う。
---	----------------------	---

5. JA・県本部一体となった長野県集荷推進の実施と販売力強化

(1)長野県の集荷および実需者販売の強化	73,500t	66,968t	概算金の引き上げ、JAと一体となった実需者営業に取り組み。
----------------------	---------	---------	-------------------------------

【生産購買部】

実行具体策	5年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
-------	-------	------	--------------

1. 包材のコスト抑制・需要の結集

(1)低コスト組箱の普及拡大	累計90万箱	累計32万箱	ぶどう段ボールおよびりんご3kg段ボールの低コスト組箱化を実施。 今後、北信JA中心に拡大推進をはかる。
(2)機能性の高い包材の導入・普及	累計15規格	累計19規格	知的所有権を有したリフ系レタス段ボール、野線割れ防止機能を付加した白菜段ボール、美粧性の高いぶどう贈答用段ボールを導入。

2. 低コスト・省力資材の開発、普及

(1)軽量肥料(15kg袋)の開発・普及	800t	1,645t	新規に7銘柄が採用され、計画を大幅に上回った。銘柄開発、既存銘柄の推進を引き続き行う。
(2)BB指定混合肥料の普及拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化済 2銘柄試験中	次年度も継続して試験を行い、製品化の可否を決定する。

3. 担い手への提案型推進

(1)わたしの肥料受注推進	5,000t	4,904t	受注・製造・物流の効率化をすすめる。
(2)担い手直送規格農薬の普及拡大	5,800ha	5,759ha	水稲剤の新規取扱品目拡大で増加、園芸除草剤で受注減少。実績拡大に向けた推進を引き続き行う。

4. システム構築・連携による業務効率化

(1)データ連携取引先拡大によるバーコード受入力率の向上	70%	64%	カバール率向上に向け、関係取引先と協議をすすめる。
(2)戸配管理システムの肥料農薬データ連動	二次開発検討	検討中	開発元と連動課題の洗い出しと対応策の検討をすすめる。

5. 県域農機整備事業の体制強化

(1)県域農機整備拠点による系統整備体制強化	丸子360台 堀金200台	丸子382台 堀金222台	北信地区からの受入増加 中南信地区の受注堅調
------------------------	------------------	------------------	---------------------------

6. 農機コスト低減の取り組み

(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計11型式	累計11型式	歩行ハンマーナイフモア（6馬力）を選定
(2) 中古農業機械の流通促進	サイト成約40台	サイト成約19台	玉不足及び下取りJ Aでの成約率増に伴うサイト掲載台数の減少

【畜産酪農部】

実行具体策

5年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産基盤の維持強化

(1) 肉牛（枝肉）の出荷頭数確保	6,750頭	6,386頭	J A・関連会社・販社と連携し、補完的生産事業による頭数維持、有利販売をはかる。
(2) 肉豚（枝肉）の出荷頭数確保	59,000頭	58,062頭	1農場中止により出荷頭数に影響あり。令和6年4月より再開農場があり、安定出荷に向けて関係機関の連携をはかる。
(3) 生乳の出荷量確保	85,000t	80,470t	酪農家戸数の減少、夏場の猛暑による乳量低下の影響あり。県本部生産基盤対策事業の活用による基盤維持をすすめる。

2. 信州産ブランドの強化

(1) 信州プレミアム牛肉の生産販売	2,600頭	2,338頭	ブランドの認知度を更に高め、販売の強化をはかる。
(2) 銘柄豚の特色ある販売方式の維持	10銘柄継続	10銘柄継続	お客様・販売先に支持される特色ある銘柄豚の継続に向けた協議をすすめる。
(3) 生乳のポジティブリスト制度に係る全戸巡回	230戸	207戸	全戸巡回を実施完了（全207戸）

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1) 素子豚の安定供給	22,500頭	20,258頭	肥育事業強化および県内外への販路拡大により生産基盤維持をはかる。
(2) 預託牛の受入頭数拡大	390頭	383頭	酪農家の作業軽減・支援に向けた受入れ頭数確保をはかる。
(3) 生乳の出荷量確保	1,700t	1,840t	搾乳頭数の増加および飼養管理の徹底により順調に推移

4. 畜産酪農営農センターの機能強化

(1) 県本部生産農場での実習その他研修	3回／年	1回	ハケ岳牧場および三岳牧場での若手後継者育成も含めた継続実施
----------------------	------	----	-------------------------------

5. 食肉処理施設の方向付け

(1) 長野県食肉施設検討会の協議	県の検討会での協議	関係各所での協議	最終移転候補の選定をすすめる。
-------------------	-----------	----------	-----------------

【生活部】

実行具体策

5年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. SS協同経営方式の拡充による体制強化

(1) J A合意形成と段階的な事業方式の移行	地域ライフラインSS、協同経営方式の決定と加盟準備	ライフラインSS協同経営方式令和6年4月開始	ライフラインSS協同経営方式の運営安定化と加盟希望J Aとの協議継続
-------------------------	---------------------------	------------------------	------------------------------------

2. 石油取扱数量の確保

(1) 系統結集数量を背景にした仕入強化	290,800kℓ	254,892kℓ	県統一の特別対策実施や灯油新規疎遠客獲得により系統結集をはかった。顧客固定化ではENEKEYやSSアプリ会員獲得に取り組み、今後も継続推進し顧客利便性向上につとめる。
(2) キャッシュレス・Web化対応による顧客固定化	(協賛含む)	(協賛含む)	

3. SS協同経営販売数量の確保

(1) SS独自キャンペーンによる来店促進	66,000kℓ	63,983kℓ	サマーキャンペーン、LINE・SSアプリによる販促企画およびSS独自企画を実施した。A・コプ事業連携の取り組みは4J A16SSで年3回実施し、今後も拡大をはかる。
(2) J A事業と連携した供給促進の展開			

4. ガス取扱数量の確保

(1) J A別マスタープラン実践による小売事業強化	17,100t	15,171t	14J Aでマスタープラン検討会を開催し、行動計画進捗管理を実施。顧客接点強化ではベシックサービスは11J Aで取り組んだ。今後は有効面談の導入による営業推進体制の強化をはかる。
(2) 顧客防衛に向けた体制整備と接点強化			

5. ホームエネルギー推進体制の確立

(1) J Aでんき取扱いの拡大	低圧供給	低圧供給	J Aでんき取扱9J Aで展開し、4J Aがセット割引を実施。奨励等を活用した組合員推進とセット割導入J Aの増加で契約戸数拡大をはかる。
(2) 灯油・L Pガス・電気のセット割引導入	累計4,500戸	累計2,190戸	

6. 自動車取扱台数の確保

(1) 営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2,750台	2,204台	J Aサンバーの新聞広告PRとJ A祭や展示会などで営農車の販促を実施した。電動車は納期改善により今後積極的な推進をはかる。
-----------------------	--------	--------	--

7. eコマース事業の拡大

(1) 取扱商品の拡充とJ Aと連携したPR強化による「らくJ A」お届け便」登録会員の拡大	8000商品 2,200会員	6400商品 2,531会員	J A祭および各種イベントにて会員加入促進とPRを実施。J A独自品や青果物の取り扱いにより供給拡大をはかった。今後もJ A女性部研修会での推進や独自商品の拡充により会員・供給拡大をはかる。
--	-------------------	-------------------	---

ナガノきのこ大祭2024

きのこの魅力を知って楽しめるイベント「ナガノきのこ大祭2024」が4月27日(土)に信州の幸あみずホール(更埴文化会館)で開催されました。『信州ノ春のきのこまつり』のきのこに触れて、キット・モット好きになるをテーマに、きのこ生産・販売・流通に関わる会社・団体が実行委員となり、様々なブースが出展しました。



旬のアスパラときのこを袋詰めした「満足バック」



ガラボン抽選会

JA全農長野野菜きのこ課は、フリーズドライ商品の「信州きのこの味噌汁」の試食や、旬のアスパラときのこを袋詰めした「満足バック」を数量限定で提供しました。

また、全農長野ブースを利用された方にガラボン抽選会を実施し、多くの来場者にご参加いただきました。きのこモニュメントには栽培瓶付きのこ、バケツきのこを展示し、注目を集めました。

長野県スポーツ協会に長野米などを寄贈

JA全農長野は、県内青少年スポーツ選手の強化に役立ててもらおうと、長野県産「コシヒカリ」などを(公財)長野県スポーツ協会に寄贈しました。寄贈品は長野県スポーツ協会を通じて、全国大会をはじめ各種大会で活躍している県内のスポーツ団体に届けられます。

4月26日(金)の寄贈式で、全農長野の根津彰寛副本部長が「県内青少年スポーツ選手の強化に役立ててほしい」と目録を手渡すと、北村正博理事長

は「今年も長野米などを寄贈いただき、ありがとうございます。寄贈品は確実に選手強化の一助となり、昨年は全国大会で優勝するクラブもあり、県民に大きな喜びと夢を与える結果となった。2028年には県内で国民スポーツ大会が開催される。引き続きご支援いただくとありがたい」と感謝の気持ちを述べました。

この取組みは、1999年度から始まり、今年で26回目となりました。



北村理事長に目録を手渡す根津副本部長(右)

寄贈品

- 長野県産コシヒカリ3,000kg
- 信州まるごとりんごジュース(160g) 3,000本
- 信州まるごとなめ茸1,500本

▼▼▼野菜きのこ課

「長野県産 野菜ときのこキャンペーン」開始!

J A全農長野野菜きのこ課は今年度、「長野県産 野菜ときのこキャンペーン」を実施します。

第1弾(5月20日から7月31日)は、「夏バテ予防に! スタミナUP or 疲れた身体に! 回復力UPどっち派?!」をテーマに、フードプロデューサーの河瀬璃菜さんが考案した、野菜・きのこそれぞれ5つのレシピを提案します。同時に、河瀬さんの10のレシピの中で作ってみた料理などのアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で100名様に、

信州和牛または信州りんごジュースをプレゼントします。

また、料理のレシピ動画を公開しているアプリ「デリッシュキッ

アンケートに答えて抽選に応募!

100名様にプレゼント!

A 信州和牛 400g 30名様 B 信州りんごジュース 500ml 70名様

応募締切 2024年7月31日(日)正午

料理研究家 河瀬璃菜さん考案

長野県JA産きのこレシピ 限定公開中!

DELISH KITCHEN レシピ動画も掲載中

アンケートに答えて抽選に応募!

100名様にプレゼント!

A 信州和牛 400g 30名様 B 信州りんごジュース 500ml 70名様

応募締切 2024年7月31日(日)正午

料理研究家 河瀬璃菜さん考案

信州野菜 レシピ 限定公開中!

DELISH KITCHEN レシピ動画も掲載中

チン」の野菜ときのこの人気レシピをストアビジョン(店頭の動画モニター)で放映し、メニューを決めずに買い物をするお客様に購入を促します。

野菜きのこ課は、季節ごとに手軽なレシピを提案することにより、いつも長野県産野菜ときのこ料理がある食卓を目指し、消費宣伝活動に取り組んで参ります。

県内スピードスケート選手を応援! 山田梨央選手と伊藤誠悟選手が来訪



5月7日(火)、J A全農長野がスポンサー契約を結んでいるスピードスケートの山田梨央選手(所属/直富商事株式会社)と伊藤誠悟選手(所属/長野県競技力向上対策本部)がJ A長野県ビルを訪れ、職員に挨拶をしました。

山田選手は「昨シーズンは全ての世界大会に出場することができ、過去最高の4位に入ることができました。スイカが大好きで、一人で1玉食べます」と話し、伊藤選手は「就職を取りやめてスケート選手になりました。来シーズンの目標はワールドカップ出場です。応援よろしくお願いします」と話しました。

全農長野は令和5年度より、長野県産農畜産物をおとして県内出身の両選手を支援しています。

▼▼▼総務広報課

新採用職員紹介

令和6年度の新採用職員を順次ご紹介します

生産振興部

生産振興課

まつばやし ち さ き
松林 千咲希



実証圃でピーマンの植え付けをしました

はじめまして、生産振興課の松林千咲希と申します。

出身は長野市です。趣味はドラマや動画を見たり、音楽を聴いたり、自分で運転をしたりすることで、広く浅く楽しむことが好きです。

小さい頃から農業が身近な環境で育ちましたが、新しく学ぶことが多く、やりがいを感じています。まだまだわからないことや不安がありますが、1日でも早く戦力になれるよう精一杯努力します。どうぞよろしくお願いいたします。

生産販売部

米穀課

かねばこりょう た
金箱 諒大



米穀課の新人です！

はじめまして、米穀課の金箱諒大と申します。

出身は長野市で、大学も県内だったので長野県から生活の場を移すことなく暮らしてきました。趣味はアニメ鑑賞と競馬で、最近は高校までやっていた水泳を再開し、たまに泳ぎに行くようになりました。

大学で農業を学び、長野県の農業に貢献する仕事がしたいと思い、入会いたしました。至らない点やわからないこともたくさんありますが、頑張っ参りますのでよろしくお願いいたします。

生産販売部

果実花き課

むらかみ けい た
村上 啓汰



南信のリンゴの高密植栽培を行っている果樹園で撮りました

はじめまして、果実花き課の村上啓汰と申します。

出身は長野市で自然豊かな山に囲まれた土地で育ちました。趣味は野球で、冬はスノーボードをするのが好きです。

本会に入会してまだわからないことだらけで、農業に関しても未熟者ですが、一日一日を大切にして、皆様のお力になれるよう全力で頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

生産販売部

野菜きのこ課

つるまき りょう
鶴巻 伶



信州力と一緒に頑張ります！

はじめまして、生産販売部 野菜きのこ課の鶴巻伶と申します。

出身は長野県箕輪町です。趣味は料理をすることで、休日はお菓子作りやパン作りをしています。作るだけでなく食べることも好きで、休日は友人と美味しいものを食べに出かけしています。

農業に関わることは初めてで、わからないことばかりではありますが、少しずつ勉強しながら長野県の食と農業に貢献できるよう日々の業務に取り組んでいきたいです！

よろしくお願いいたします。

JA全農長野の事業現況▶

令和6年度4月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		4	0	0
野菜種苗センター		31	87	96
生産振興部計		35	98	108
米	穀	1,364	109	154
果実花き		246	99	95
野菜きのこ		1,732	103	104
営業		373	95	117
生産販売部計		3,716	104	119
包装資材		424	92	101
生産資材		1,566	100	96
農業機械		631	111	100
施設住宅		182	104	33
生産購買部計		2,804	101	87
畜産酪農		2,371	112	100
三岳牧場		32	93	94
SPF繁殖センター		25	90	120
八ヶ岳牧場		24	111	128
畜産酪農部計		2,452	112	101
燃料・ホームエネルギー		2,238	101	104
S S 協同経営		708	120	102
生活		765	119	104
生活部計		3,712	107	104
長野県本部計		12,717	105	102

(内部販売高含む)

6月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
6/11(火) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえがりでい内 [いいJAん家庭菜園]	JAファーム
6/26(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえがりでい内 [暮らしの応援団]	農業機械課

今月のおすすめレシピ

長野県産 野菜ときのこキャンペーン レシピ

クタクタブロッコリーの ペペチーズパスタ



■材料(1人分)

- ・ブロッコリー 100g
- ・パスタ 100g
- ・にんにく 1かけ
- ・鷹の爪(輪切り) 1本
- ・オリーブオイル 大さじ2
- ・オリーブオイル 大さじ1(仕上げ用)
- ・パルメジャーノレッジャーノ 大さじ1/3
- ・黒胡椒 少々

■作り方

- ① にんにくはつぶしてみじん切りにする。ブロッコリーは小房にわける。
- ② たっぷりのお湯(1リットルに対して8gの塩をいれる)を沸かし、ブロッコリー、パスタをいれパスタは袋表記時間の1分前に茹であげる。ブロッコリーは5~6分茹でたら、ざるにあげる。
- ③ 中火で熱したフライパンにオリーブオイル大さじ2をひき、にんにく、鷹の爪を焦げないように香りが立つまで炒めたら、ブロッコリーと茹で汁(お玉1杯)を加えブロッコリーを木べらで潰しながら混ぜ合わせる。
- ④ 茹で上がったパスタを③に加え、仕上げ用のオリーブオイルをまわしかけよく混ぜ合わせる。
- ⑤ ④を皿に盛り、パルメジャーノレッジャーノを削り黒胡椒をふる。

ワンポイント アドバイス

* パスタを茹でる際に、ブロッコリーと一緒に、クタクタになるまで茹でソース状にします。味付けはペペロンチーノのような味わいですが、仕上げにチーズをかけることで淡泊な味わいの中にコクと旨みがアップ。

グリーンリーダー
X(旧ツイッター)
はこちら



グリーンリーダー
WEB版はこちら



編集後記

春先から好天候に恵まれ県内各地で田植えが順調にすすんでいます。残念ながら5月10日に低温降霜となり、東信、松本、北信地域の9市町村が被害を受け、野菜(アスパラガス、ジューズ用トマト)、果樹(ぶどう、りんご、ブルーベリー)の被害額は19,945千円(5月16日現在)にのぼります。

さて、「食料・農業・農村基本法」の改正について、審議が本格化しています。JAグループでは、「食料安全保障の確保に向けた基本政策の確立」「次期食料・農業・農村基本計画の実効性の確保」「適正な価格形成の速やかな法制化」「全国で老朽化が顕在化している共同利用施設の整備・更新対策」の4点の政策提案をしています。

令和6年度は次期(令和7~9年度)中期事業計画を策定します。とりわけ「適正な価格形成の実現」は中期計画にも影響します。長野県農業算出額は2003年の2,425億円から、2021年には2,624億円に伸びました。これは農家数、栽培面積の減少のマイナス面より、近年のインフレ影響によるもので、残念ながら農家手取りの最大化、農畜産物の再生産に必要なコストが合理的に含まれた結果とは到底言えません。

「農政の憲法」とされる食料・農業・農村基本法改正は、日本農業の行く末を案じる上で大変に重要です。

(一)

ごつつあんです 信州の農畜産物



JA全農長野は、長野県の農畜産物をとおして御嶽海関を応援しています

グリーンリーダー6月号（毎月発行） 2024年5月20日発行 第541号
発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人／長谷川孝治 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

